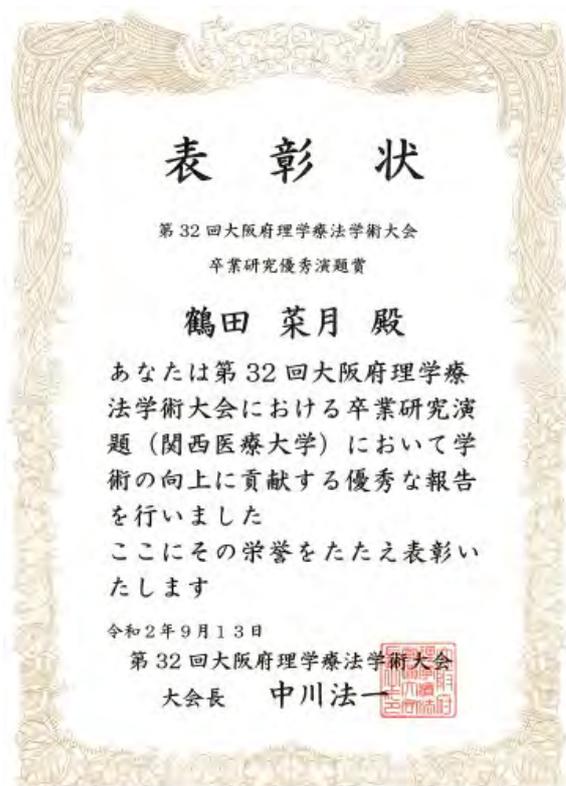


2020年9月13日に開催されました第32回大阪府理学療法学会大会の卒業研究演題において、当院の鶴田菜月さんが優秀演題に選ばれました。研究名は「視覚情報の付与条件を変化させた運動練習が運動イメージの明瞭性に与える影響」です。リハビリテーション科として、大変光栄なことであり、また他のスタッフも決意を新たにいたしました。リハビリテーション科は、今後も臨床、教育、研究に励み、患者様に質の高い理学療法を提供できるように取り組んでまいります。



今回、第32回大阪府理学療法学会大会卒業研究優秀演題賞をいただきました。研究をおこなうにあたりご指導をくださった諸先生方、研究参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本研究では、視覚付与条件を変化させることで運動イメージの明瞭性がどのように変化するかを検討しました。実運動と同時に運動イメージをおこなうと、運動の正確度を高めることができますが、この場合、対象者には高いイメージ能力が必要であることがわかりました。しかし、対象者によってイメージ能力には個人差があるため、イメージ能力を高める練習方法を検討していく必要があると考えました。本研究から得られた知見は運動療法における部分荷重練習など、正確に強度を調節する場面で適用できると考えております。

臨床において疑問を持ち続けることの大切さと研究に携わってくださった方々への感謝を忘れずに、今後も研究活動に取り組む所存です。